

海外活動報告

インドネシア共和国における医療技術支援

野口 誠¹・井上さやか¹・坂井千恵子¹
山田正名²・小宮良輔²・大前明博³

Medical technical support to the republic of Indonesia

Makoto NOGUCHI¹, Sayaka INOUE¹, Chieko SAKAI¹,
Masana YAMADA², Ryosuke KOMIYA², Akihiro OMAE³

¹Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences for Research, University of Toyama

²Department of Anesthesiology, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences for Research, University of Toyama

³Division of Nursing Toyama University Hospital

要 旨

平成21年11月15日から26日にわたり、インドネシア共和国において、富山大学医療チームとして口唇口蓋裂を対象とした医療技術支援活動を行った。本活動はセレベス口唇口蓋裂協会ならびにハサヌディン大学口腔外科をカウンターパートとし、無償手術の実施、講演会、市民に対する啓蒙活動などを行った。

Abstract

Abstract: Medical technical support, to take cleft lip and palate as an object, to the republic of Indonesia was performed by the medical team of university of Toyama from November 15th to 26th 2009. This public mission had as counterpart the Celebes cleft lip and palate foundation and department of oral and maxillofacial surgery, Hasanudin university, in which charity operations for cleft patients, lectures to doctors or university students, enlightenment for citizens and so fourth were provided.

Key words : Medical technical support, cleft lip and palate

■はじめに

報告者のひとり野口は1996年より、インドネシア共和国における、口唇口蓋裂を対象とした医療技術教育支援活動を行ってきた。本活動のカウンターパートは、パジャジャラン大学（バンドン市）内に本部を置くインドネシア口唇口蓋裂協会である。主な活動内容は、経済的理由により未手術の口唇口蓋裂患者に対する無償手術の提供とそれらの実地手術を通しての技術移転、および講演会、セミナーなどによる学術交流ならびに物品供与である。

本年度は、ハサヌディン大学（スラウエシ島、マカッサル市）内に本部を置く、セレベス口唇口蓋裂協会からの要請を受け、新たに同大学歯学部口腔外科ならびに同協会をカウンターパートとした活動を行ったのでその概要を報告する。

■活動の概要

本年度の活動は、独立行政法人郵便貯金、簡易生命保険管理機構の国際ボランティア事業補助金ならびに富山大学専門医養成支援センター補助事業による補助金により行われた。参加人員は計9名で、本学からは附属病院歯科口腔外科所属歯科医師3名（口腔外科専門医、指導医各1名）、麻酔科医師2名（1名は麻酔指導医、1名は富山大学専門医養成コースによる後期研修医）、手術室看護師1名が参加した。インドネシア側からは、ハサヌディン大学ならびにパジャジャラン大学所属口腔外科医および麻酔科医ならびにアムステルダム自由大学（Vrije Universiteit Amsterdam）所属口腔外科医（1名）であった。平成21年11月15日から11月26日に亘り、スラウエシ島南部の3カ所で活動を行った。以下、活動地ごとに概要を報告する。

¹富山大学大学院医学薬学研究部歯科口腔外科学口座 ²富山大学大学院医学薬学研究部麻酔科学口座

³富山大学附属病院看護部

活動地：バンタエン

活動を行った施設は、病床数80床、内科、小児科、外科、神経科、産婦人科、総合診療科、歯科からなる総合病院 (Rumah Sakit Umum Prof. Dr. HM. Anwar Makkatutu Bantaeng) で、常勤医は10名であった。手術室は3室で、全身麻酔器は1台であった。総計15例の無償手術を行った。

活動地：マカッサル

活動施設は、病床数約350床、内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、小児科、歯科からなる総合病院 (Rsud Labuang Baji) である。手術室は6室を有し、看護師は14名、麻酔科医は1名で麻酔看護師は5名であった。平均1日10例の手術を行っているとのことであった。総計22例の無償手術を行った。また、技術移転の一環として、両側性口唇形成術のライブオペを行った。

マカッサル市の歯科医師を対象とした学術講演会 (Susan acra Makassar scientific meeting 2009) において、野口 (Role of dental doctor in management of oral cancer) と小宮 (Dental anesthetic management of patients with systemic diseases) が講演を行った。一般市民向けの啓蒙活動として、野口は現地ラジオ放送局 (デルタFMマカッサル) からの依頼によりラジオ番組に出演し、口唇口蓋裂児の発生リスクや治療などに関して、地元医師との対談を行った。また、学生に対する教育活動として、ハサヌディン大学歯学部において、「Oral and Maxillofacial Surgery: past, present, and future」と題する講義を行った。

活動地：タナ トラジャ

活動施設は、病床数約200床、内科、外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、神経科、小児科、歯科からなる総合病院 (Rumah Sakit Umum Lakipadada Tana Toraja) で、医師は16名、看護師32名、麻酔看護師2名であった。総計12例の無償手術を行った。

■まとめ

現地医師による手術および共同手術を含めると総計120例以上の無償手術が行われた。これらを通して、口唇口蓋裂治療のみならず、麻酔管理を含めた周術期管理に関する技術交流が行われた。また今後、医療技術交流のみならず、学術交流としてスラウエシ島南部における口唇口蓋裂の発生状況、発生リスクなどに関する調査研究を進めることとした。

表1 過去3年の本学および附属病院からの参加者

	2007年度	2008年度	2009年度
歯科口腔外科	野口 誠	野口 誠	野口 誠
	井上さやか	朽名智彦	井上さやか
	上田耕平	能登久美子	坂井千恵子
	朽名智彦	今上修一	
麻酔科		积永清志	山田正名
			小宮良輔
看護部	種 依子		大前明博



図1 山田と小宮による麻酔導入



図2 医療技術移転の一環として、ライブオペも行われた



図3 講演終了後に大会長から、感謝状が手渡される(小宮)



図4 ラジオ番組において、地元医師と口唇口蓋裂に関する対談を行う



図5A ハサヌディン大学歯学部における講義



図5B 講義を聴講する学生